

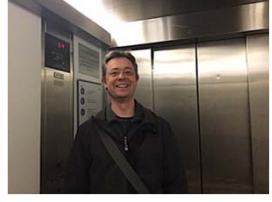


オランダの助産・母子保健の現状を巡る in オランダ(アムステルダム・ライデン他)

2016/2/28~2016/3/9
2年 三宮 柁名

渡航先での活動内容

インタビュー



男性助産師 David Borman さん



互助支援NPO Markant



オランダで出産した日本人家族 元訪問産後看護師 Laurens Dittmers さん
(松本和志さん・松田あけみさん
江黒真弓さん・岩村かおるさん)



元訪問産後看護師 Laurens Dittmers さん



訪問産後看護師 小出久美さん



家庭医 Wilbert Sluiter さん

職場同行



小児保健所の乳幼児健診
(藤尾純子さん)



新生児訪問及び妊婦訪問
(Tom Kreuning さん)

施設見学



Sint Lucas 病院



ベビー用品店 prenatal



ボスポーム・タッサイント通り



助産師クリニック with 長崎大学
(大西真由美先生・大石和代先生
Marloes Guntenaar さん他)

目的と評価

目的

- ① 男性性・父性が出産育児の中で果たす役割を知る
- ② 出産や育児の情報を、家族がどこから得ているのか知る
- ③ オランダの助産・母子保健活動の良い点と課題を考える

評価

- ① … 男性助産師・訪問産後看護師は、家族のサポーターとして働いており、女性からの拒否は見られなかった。出産に立ち向かう妻のコーチとして夫は機能しており、育児に関しては夫婦で分担して行っている。
- ② … 充実した産前学級や母子手帳により、出産育児に関して根拠のある情報を家族は入手することができる。また助産師保健師は、科学的根拠のある情報と自身の経験の双方を区別して提供するよう心掛けていた。
- ③ … 夫週4妻週3の勤務形態に代表されるように、家事育児を両立しやすい労働環境が整備されている。専門家と相談できる機会が十分に確保されており、相談できる環境も整っている。一方で、自宅分娩の救急搬送率の高さや麻酔分娩・無介助分娩の増加、児童虐待、小児の肥満など多くの課題があることも分かった。

反省点

- ・ 出産に関する既知英単語の不足
- ・ 労働法やイスラム文化など、助産・母子保健分野に関わる他分野への理解の不足
- ・ 宿泊先のホテルをきちんと確認しなかったこと

グローバルな視点とは何か

世界中の誰にとっても価値のあることを生み出そうと、問題を広い視野で捉えることこそ、グローバルな視点だと考える。「文化の違いだから」という言葉で問題を一蹴せず、文化性の違いを越えた説明をする先に新しい価値・アイデアが生まれるのではないかと。そのためには、専門分野の知識だけではなく、幅広い教養と洞察力が必須である。

将来の進路決定へどう影響したか

助産や母子保健への関心がより深くなり、子供が元気に生まれ、育っていく日本を作り上げたいという覚悟がうまれた。海外で助産師の臨床経験を積み、将来は政策や研究の面から、助産・母子保健分野に携わっていきたいと思う。

後輩へのアドバイス

- ・ 自主計画を立てる大変さはあるが、その分学ぶことも多い
- ・ 訪問アポイント個人にとったほうが受け入れてもらいやすい
- ・ 他大学・組織の研修に一部同行できると、スケジュール作成が楽

研修支援制度に望むこと

- ・ 大学間協定の数を増やしてほしい
- ・ 海外研修に関する英語版の公式説明文書を作成してほしい
- ・ スケジュールを確定させる期日を出国2週間前まで伸ばしてほしい